

めでいかすとり  
Médicastre



「新センター外観」

新健康管理センター開設にあたり

## ～ 先人に学ぶ ～

社団法人 鶴岡地区医師会

会 長 中 目 千 之

まず初めに、このたびの東日本大震災によりお亡くなりになられた方々には心からお悔やみを申し上げます。また、被災地の一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

当医師会にとって長年の懸案であり、悲願でありました、健診事業にだけ特化したセンターをようやく完成することができました。多くの関係者の方々に心から感謝する次第であります。土地の交渉を開始したのが、平成18年6月ですので、実に5年かかったということになります。新健康管理センターは、ナチュラルモダンというコンセプトのもとに、ナチュラル（自然を大事にする）の中にも少しモダンなものがあるということで、鶴岡の街に合った、華美にはならず、しかし最新の設備とモダンさを兼ね備えた設計のもとに建築されています。この新健康管理センター建設にあたっては、設計の段階から職員が全面的にかかわっており、御橋次長を初めとする職員の創意と工夫、そして汗の結晶であります。レディースフロア、CT等内容の充実に努め、鶴岡の健診施設の中核的存在をめざすという強い信念を持って、新たなページを切り開いていこうと一致団結してがんばる所存であります。我々は時に歴史に学ばなければなりません。当医師会がこれほどまでに事業を展開できる団体になったのも、その原点は、昭和59年に建設された旧健康管理センター（現医師会館）の建設です。昭和59年当時、ほとんどの人

がドック健診など知らない時代に、これからは万人が健診を受ける時代になると予測し、ドック、住民健診、事業所健診等を行政と連携して医師会でおこなうことを決定し、行動を起こした先人がいました。三浦宏平先生のお父様である三浦光彦先生が会長の時代に発案され、現在、渡部清先生が開業なさっている池田内科医院の池田勤先生が会長のときの昭和59年に旧健康管理センターが建設されたのです。旧健康管理センターを中心に健診事業を発展させることで、医師会主導の地域医療の足がかりを作り、同時に健診事業による潤沢な内部留保金により、その後の介護保険関連事業やIT関連事業に積極的に事業展開していくことが可能となったのです。このように、時代の先を強烈に読み、それを果敢に行動に移して形あるものに作り上げた先人がいたからこそ、今、東北でも珍しい、7事業を行うまでに発展した当医師会が存在しているのです。当医師会は、常に時代の先端を読んで行動してきた多くの先人の業績の連続の上にあります。それは、旧健康管理センター設立のときの三浦光彦先生や池田勤先生、湯田川温泉リハビリテーション病院設立、みずばしょう設立のときの渡部直哉先生や齋藤壽一先生、そして現在では、三原一郎先生を中心としてITによる地域連携が全国に発信されています。常に一步先を行く、当医師会のDNAです。今回の、この新健康管理センター開設にあたり、心

新たに、我々執行部一同は、先人の行動に学び、時代の行く先を的確に予測し、決断と実行を繰り返り、決して立ち止まることなく前進してい

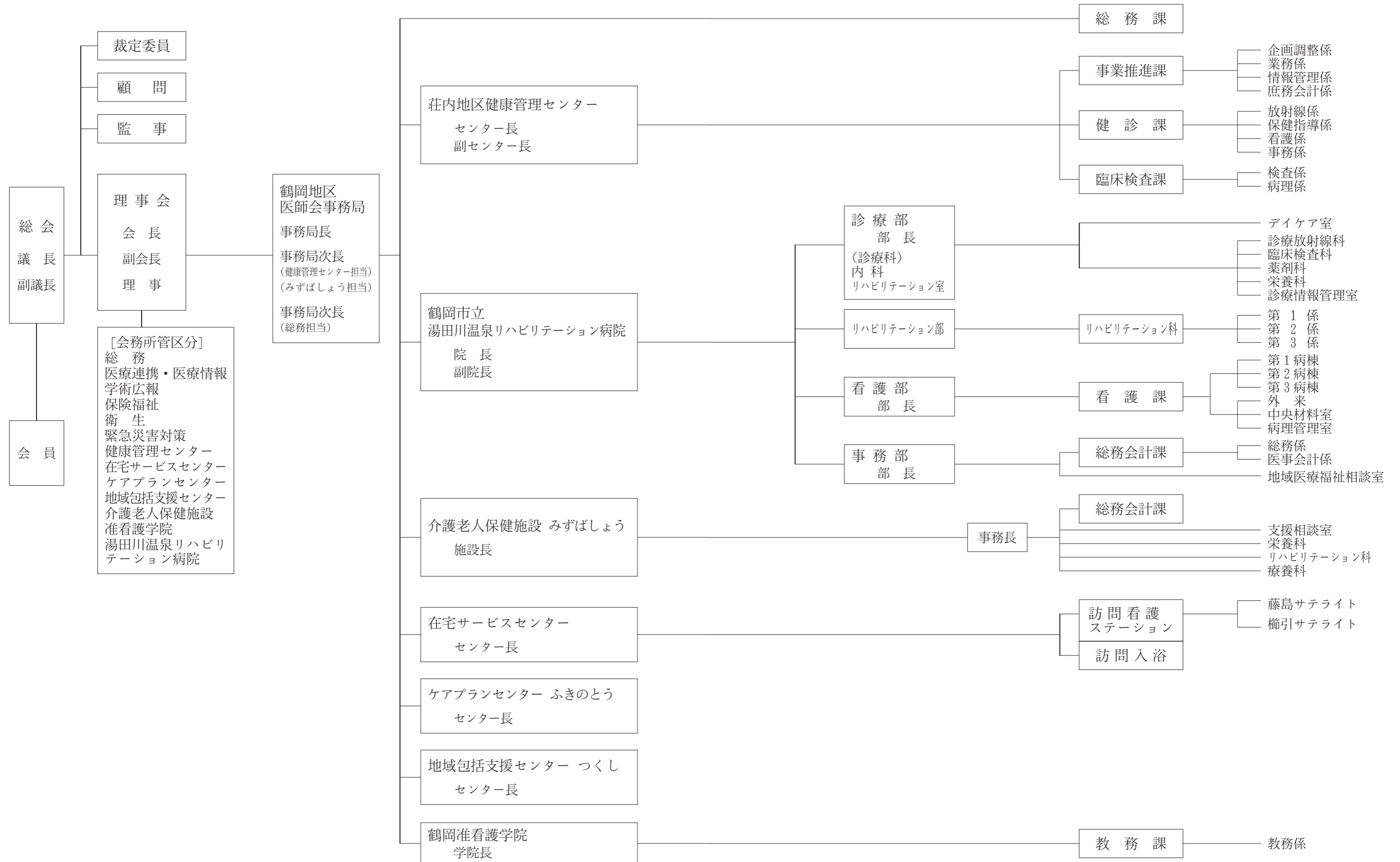
くことを決意しております。会員の先生方の更なる医師会活動へのご協力を重ねてお願い申し上げます。

### 4月2日・3日 内覧会の様子



# 鶴岡地区医師会組織機構

(23年4月1日施行)



## (旧)健康管理センターでの健診終了セレモニー

荘内地区健康管理センター 事業推進課

木村由美

新健康管理センターでの健診は4月11日(月)に新たにスタートしました。

ところで旧センターでの健診は昭和59年以来27年間の長きにわたって行なわれてきましたが、去る3月2日にその幕を閉じました。

実はその翌日の3月3日にセンターの職員が健診ホールに集合して、終了セレモニーを開催しました。その目的はこれまでの業務を無事に終ることができたことに対して感謝することと新センターのなお一層の発展を願うことでありました。

はじめに御橋次長が旧センター開設以来のエピソードなどについて話しました。

続いて“センター27年間クイズ”(下記)を行ないました。クイズの問題と解答のボードの持ち役は千葉沙弥香さん(検診課)と須藤瑠奈さん(臨床検査課)が担当しましたが、二人とも旧センター開設と同じ昭和59年の誕生でありました。クイズは正解の職員が多く、それぞれの旧センターに対する思いの深さがうかがわれました。

最後に阿部勇樹君(管理課)の音頭で全員で三本締めを行なって、新センターでのさらなる健闘を誓い合いました。

### センター27年間クイズ

Q 1 昭和59年オープン時の職員数は?

① 35人 ② 52人

Q 2 乳がん検診はいつ始まったでしょう?

① S62年 ② H 8年

Q 3 超音波検査が、ドックのオプションになったのはいつでしょう?

① S62年 ② H 7年

Q 4 22年度の健診収入は、S59年度の何倍でしょうか?

① 2.55倍 ② 3.65倍

Q 5 センターを受診した延べ人数は?

① 481,100人  
② 276,500人

答え

Q 1 - ②、Q 2 - ①

Q 3 - ②、Q 4 - ②

Q 5 - ①



# マイペット & マイホビー

— 第71回 —

おのこども診療所 小野俊孝

鶴岡地区医師会の皆様、「めでいかすとる」をご愛読いただいている皆様、こんにちは。書ける内容も、文筆の才もなく、しかしお断りもできず、今回に至りました。

他の先生方のように高尚な趣味や隠れた才能はありません。自身を曝せるようで、恥ずかしくもあり、広く口外されないようお願いいたします。

ペットというより生きものは3種類、同居しています。

金魚は代を重ねながら10年近くになります。現在は診療所待合室の比較的広い水槽で、優雅な姿を子どもたちに見せて喜ばれています。大きくなれば立派ですが、もとは露天の金魚すくいのもとの量販店のまとめていくらのものでした。餌を与えるのは水槽の裏側からです。裏側に近づくと一齐に水面に集合します。一方、みんなが眺める表側からのぞいても知らん顔をしています。生きものは食べることに忠実です。水槽に川魚を混ぜたことがありました。野生のたくましさで金魚は虐待され、あわてて金魚のみに戻しました。

2種類目はインコです。手のりという触れ込みでやってきましたが、我が家の人には懐かず、籠から脱走して大騒ぎになりました。現在は「ギー、ギャー」の奇声と羽毛とえさ屑を撒き散らしながら、居間の隅に陣取っています。買ってくるときに聞きました。寿命は10年以上あること、ペットの鳥は野生では生きられません、



決して戸外に離さないように。ただし、野生化しているオウムの例もあるようですが。

3種類目はゴールデンという種類の犬です。8年前に長男と「犬でも飼いたいね」などと覗いたペットショップのゲージに一匹残っていました。ガラス越しに息子が動かなくなりました。さらに店員さんが檻から出してくれ、抱かせてくれました「お安くしときます〜」。兄弟犬の売れ残りでした、さらに思惑と違う雄犬でした、が、連れて帰ると言って聞き分けません。予約して売られてしまわないようにすることで、なんとか一旦帰宅しました。「3人の子どもを含め4匹の世話で手いっぱい」とおっしゃる、動物嫌いの細君を数日がかりで説得し、家族5人でペットショップへ向かい、決着しました。名前は息子の提案の「ピース」が採用されました。煙草の銘柄のようでとの私の反対意見は1対4で否決されました。「番犬にはなりません、癒し系です」と言われた通り、愛嬌はあるものの、

「おまえはほんとに馬鹿だねー」と家族皆に笑われながら育ちました。いまだに道端のものは啜え、通りすがりの人には愛嬌よく飛びつき、階段を踏み外し、側溝から転落し、川に飛び込み、四足にもかかわらず凍った道で転倒します。暑いのは苦手、夏は毎日水浴びしながら過ごします。雪は大好き、鼻を突っ込み、雪かきをし、もぐり込んでしまいます。しかし道路や玄関の雪かきを手伝ってはくれません。人に換算すれば同年齢ぐらいの私の愚痴も少し聞いてくれます。

細君の言う4匹目は私です。人さまにお話しできる趣味はありません。人があまりしないことを特技とすれば、買い物と料理でしょうか。ただ、お話できる高尚なものではありません。

買い物は高級店では足がすくみます。スーパーや魚屋が好きです。私のような主夫に近い

人から、ご夫婦での買い物など男性も多く見かけます。安売りや見切り品で値下がりしているものが特に好きです。もちろん値段が安いことが魅力ですが、以前に子どもの会話を聞いたことがあります。「古くなって値下げして、それでも買う人がいないと捨てられる。もったいないね。」それ以来、臆面もなく、平気で割引シールの貼ってあるものを手にとります。最近、運送経費の少ない、産地が近いものも選びます。安売りも多く、作っている人に同情してしまいます。そういえば貝類やエビ類など国産品をめったに見かけなくなったものもあります。日本の食品産地が心配です。

料理は作ることが好きで、休みの日の食事当番は私です。包丁研ぎから魚のおろしや干物、漬物まで手を出しています。ただし、後片付けは嫌いです。

# 医師会 ニューフェイス

①氏名 ②所属 ③趣味・特技 ④ひとこと



- ① 富 樫 千代美
- ② 在宅サービスセンター 訪問看護ステーション  
ハローナース 看護師
- ③ 写真
- ④ 福岡から鶴岡に来て2年目の春を迎えました。土地勘がないので、地図を頼りに頑張りたいと思います。皆様どうぞよろしくお願ひします。



- ① 土 門 祐 介
- ② 荘内地区健康管理センター  
健診課 放射線係
- ③ 読書、ドライブ
- ④ 不慣れな事が多々あると思いますが、どうぞ宜しくお願ひします。



- ① 小野寺 直 子
- ② 介護老人保健施設 みずばしょう  
療養科 看護師
- ③ おいしいものを食べ歩くことが大好きです
- ④ 笑顔忘れずに、仕事に前向きに取り組んでいきます。よろしくお願ひします。



- ① 佐 藤 三 咲
- ② 介護老人保健施設 みずばしょう  
リハビリテーション科 理学療法士
- ③ バスケットボール、スノーボード
- ④ 利用者様に、安心と笑顔を提供できる理学療法士であるよう、頑張ります。



- ① 鈴 木 拓
- ② 湯田川温泉リハビリテーション病院  
リハビリテーション科 理学療法士
- ③ サッカー、サッカー観戦
- ④ 理学療法士として患者様のお役にたてるようがんばります。よろしくお願ひいたします。



- ① 梅 津 尚 男
- ② 湯田川温泉リハビリテーション病院  
医師
- ③ 写真・自転車
- ④ 写真は黒川能をテーマにしています。いまだ試行錯誤中です。ご指導いただきたくお願ひ申し上げます。



- ① 小 川 真 依
- ② 荘内地区健康管理センター  
准看護師
- ③ 料理、お菓子作り
- ④ 一日も早く仕事を覚えられるよう頑張ります。ご指導のほど、よろしくお願ひします。



- ① 藤 原 大 翼
- ② 介護老人保健施設 みずばしょう  
介護福祉士
- ③ 趣味：ドライブ、ボウリング  
特技：バスケットボール
- ④ 遊佐町に在住してまして、出羽三山を眺め、庄内平野の暖かな風を受けながら通勤することを楽しみにしております。利用者の皆様の思いに寄り添った生活支援ができるよう、日々取り組んでいきたいと思ひます。宜しくお願ひします。



- ① 富 樫 幸 美
- ② 介護老人保健施設 みずばしょう  
療養科 看護師
- ③ バレーボール、ボランティア、  
食べ歩き
- ④ 新たな職場は不安でいっぱいですが、東日本大震災で被災された人々の事を思うと微力ながらもどんな事でも全身全霊で取り組んでいけると思ひております。諸先輩の皆さま、どうぞ御指導、御鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。



- ① 池 田 寿
- ② 介護老人保健施設 みずばしょう  
療養科 准看護師
- ③ ドライブ、スポーツ観戦
- ④ 早く医師会の職員として認められるよう、精一杯努力し頑張りますので、よろしくお願ひします。



- ① 太 田 敬 之
- ② 湯田川温泉リハビリテーション病院  
リハビリテーション科 理学療法士
- ③ 趣味：プロ野球観戦(巨人戦)、海外ドラマ  
特技：スキー・スノーボード
- ④ 地域の患者様に少しでもより良い生活を送って頂くために、その人にとって最適な理学療法を提供し、生まれ育った地域に恩返しできるように頑張ります。





- ① 本間 小百合
- ② 湯田川温泉リハビリテーション病院  
リハビリテーション科 理学療法士
- ③ 歌うこと、ピアノ
- ④ 常に向上心を忘れず頑張ります。  
よろしくお願ひします。



- ① 五十嵐 亮
- ② 湯田川温泉リハビリテーション病院  
リハビリテーション科 理学療法士
- ③ ウィンタースポーツ、釣り
- ④ 一日でも早く職場の雰囲気溶け込めるように精一杯がんばりたいです。どうかよろしくお願ひします。



- ① 杉浦 寛子
- ② 湯田川温泉リハビリテーション病院  
リハビリテーション科 理学療法士
- ③ 音楽鑑賞
- ④ 未熟者ですが、精一杯頑張ります。  
よろしくお願ひ致します。



- ① 保津 恵美菜
- ② 湯田川温泉リハビリテーション病院  
リハビリテーション科 作業療法士
- ③ ドライブ、映画鑑賞
- ④ いろいろな経験を通して、人としてセラピストとして成長していきたいと思ひます。よろしくお願ひします。



- ① 渡部 美穂子
- ② 湯田川温泉リハビリテーション病院  
リハビリテーション科 作業療法士
- ③ 音楽鑑賞
- ④ 米沢出身です。鶴岡は初めての土地なので、これから鶴岡を覚えるのが楽しみです。



- ① 石山 優香
- ② 湯田川温泉リハビリテーション病院  
リハビリテーション科 作業療法士
- ③ 趣味は食べ歩き、特技は歌うこと
- ④ この度、内陸の天童から参りました。少しでも早く魅力あふれる庄内のことを知り、対象者の皆様のお役にたてるよう努力してまいります。よろしくお願ひ致します。



- ① 志田 友美
- ② 湯田川温泉リハビリテーション病院  
リハビリテーション科 作業療法士
- ③ 英会話、映画鑑賞、ピアノ  
モンテディオの応援
- ④ 笑顔と出会いを大切に出来る作業療法士でありたいです。よろしくお願ひします。



- ① 菅原 優子
- ② 湯田川温泉リハビリテーション病院  
第2病棟 介護員
- ③ スポーツ観戦（子供達の試合を見るのが楽しみです）
- ④ 持ち前の明るさで精一杯がんばりたいと思ひます。よろしくお願ひします。



- ① 菅原 織江
- ② 湯田川温泉リハビリテーション病院  
事務部地域医療相談室 社会福祉士
- ③ 趣味：映画鑑賞
- ④ 精一杯頑張りますので、よろしくお願ひ致します。



- ① 佐藤 聖子
- ② 湯田川温泉リハビリテーション病院  
外来 看護師
- ③ お菓子作り・剣道（こう見えて二段の腕前です！）
- ④ 初心を忘れずに笑顔と努力で頑張りたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。



- ① 菅原 桃子
- ② 湯田川温泉リハビリテーション病院  
第2病棟 准看護師
- ③ ピアノ、音楽
- ④ 昨年の12月から勤務させて頂き、大変お世話になっております。以前は福祉の仕事をしており、看護業務は慣れない事が多く、戸惑う毎日ですが、皆様にはとても丁寧に指導して頂き、日々感謝しております。まだまだ足りない所は多いですが、今年度からは気持ちを新たにがんばっていきたくと思ひます。



## 故 青山文永 先生の御冥福をお祈り申し上げます。

平成23年3月27日死亡 享年85歳

### 弔 辞

青山文永先生、先生は昨年、体調を崩されてから療養中とお聞きし、その後のご容態を案じながらも元気なご回復を期待しておりました。

しかし、さる27日午前7時15分に忽然と永眠されたという訃報をお聞きし、あまりにも突然であり、しばらくは呆然として深い悲しみにおそわれました。

それは、私どもが優れた先達を失ったばかりか、当地域医療界にとってもかけがえのない先生を失ったからであります。

ご家族、ご親戚の方々におかれましても、痛惜の念はいかばかりかとお推察を申し上げます。

ここに、医師会会員並びに職員一同心からご冥福をお祈り申し上げます。

顧みますと先生は、昭和30年3月新潟大学医学部をご卒業されたあと、直ちに鶴岡市立荘内病院に実地研修に入られ、翌年には新潟大学医学部婦人科に入局され、さらに長岡市中央病院産婦人科、秋田県鷹巣町北秋中央病院、山形県八幡町公立八幡病院など数々の産婦人科病院を歴任され、昭和35年9月に現在地に大東医院を開業されました。以後、50年間にわたり、地域医療の最前線でご活躍され、地域住民の健康を守るため貢献されてきました。この間、学校医としてもご活躍され、町立羽黒第一小学校は48年8カ月の長きにわたりお引き受けいただいたほか、羽黒学園羽黒工業高等学校、数々の保育園などもお引き受けいただき、また、産業医としてもご貢献されました。

特に、学校医としてのご活躍はすばらしいものがあり、運動部の盛んな高等学校においては、部員や寮生に対し懇切丁寧な保健指導や健康相

談に応じるなど学校保健活動に積極的でありました。

このような学校医活動の功績により平成17年には山形県医師会学校保健功労者として表彰されました。

また、医師会の活動におきましても、県医師会予備代議員を26年もの長きにわたり勤められました。そのほか医師会「わかあゆ会」での活躍、厚生事業「マージャン」練磨など今覚えると、楽しいことも数々ありました。

このような先生の幅広いお付き合いは、ひとえに先生の地域に対する情熱と極めてご高潔なお人柄が反映した証でもあると思います。

先生の信念、信望をもって成し遂げられた数々のご功績に対し、ここに改めて心から感謝と敬意を表します。

先生と共に地域医療に没頭してまいりました私どもは、この医療界の苦難な時代に、優れた先達を失うことは誠に残念でなりません。先生がこれまで地域医療に尽くされてきた業績は、これからは私どもが受け継いで守っていきます。

先生、どうぞ私どもを、これまで以上に見守ってください。

最後に、本日のお別れにあたり、先生のご逝去を悼み、また生前の輝かしいご活躍とご遺徳を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げ、お別れの言葉といたします。

どうぞ、先生、安らかに眠りください。

平成23年3月30日

鶴岡地区医師会

会 長 中 目 千 之

## 故 田 宮 長 二 先生の御冥福をお祈り申し上げます。

平成23年4月9日死亡 享年89歳

### 弔 辞

謹んで鶴岡地区医師会会員 故田宮長二先生のご霊前に弔辞を捧げ、深く哀悼の意を表します。

先生は、木野俣から鶴岡に移られてから、間もなく療養と闘病を続けられ、私たちは病状の好転を願いご回復を信じておりましたが、さる9日、ようやく春が訪れてきたかのように見えたその日の午後6時32分に、忽然とご逝去なされました。誠に痛惜の念に耐えないところであります。

これまで、長らく手厚い看護をつくされてきた奥様を始め、主治医の先生や医療関係者のご心痛をご拝察しますと、悲しみはいかばかりかと計り知れないものがあります。

医師会会員並びに職員一同心からお悔やみを申し上げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

先生は、昭和18年にチャムス医科大学をご卒業されると、直ちに陸軍衛生部幹部候補生として召集され、東京陸軍軍医学校に入学されました。そして昭和19年11月に同校を卒業されると、新京第1陸軍病院、さらに奉天（現在の瀋陽）にある関東防衛軍司令部軍医部に配属されました。その頃は、中国全土にわたって戦局が激化するばかりで、戦争の悲惨さには想像を絶するものがあつたとお聞きしています。

昭和20年に終戦となりましたが、戦後の奉天市において、先生は小さな診療所を開設され、人を差別されることなく日本人をはじめ中国の人やソ連の人の診察に当られ、医師としての職務を全うされました。言い方を換えるならば、敗戦国の医師であっても外国の方々も先生を信頼して診療を受け入れてくださったということだと思います。

昭和21年に祖国・故郷に戻られると、村の人たちから大歓迎を受けました。

当時の村は、医師がいなくて病気になっても診てもらえる状況にはなく、交通・通信の不便などへき地の実情を訴えられ、この時、先生は村に留まることを決意されました。

以後、21年に福栄村診療所に勤務されてから

鶴岡に転居されるまで、実に59年間の長きにわたり、地域住民の健康を守るため献身的にご活躍され、地域に貢献されてきました。さらに、町内の保育園、小中学校の学校医や、また産業医としてもご活躍されました。

この間のご活躍とご功績に対し、昭和50年に山形県学校保健連合会から学校保健功労者としての表彰、59年には勲5等瑞宝章、平成15年には山形県医師会から学校保健功労者としての表彰、さらに18年には山間地での医療貢献者として「J Pファミリー生きがい振興財団」より表彰を受けられており、輝かしいご功績を遺されました。

先生は、このように言葉では言い尽くせぬほど、一貫して地域のために貢献していただきました。

ご自分のことは二の次、常に人のためになるならと、奉仕精神を貫かれたのであります。先生のおかげで、どれだけの多くの方がお世話になり、助けていただいたことか。いやな顔一つなさらず、熱心に耳を傾け、いつも適切な処置をおとりになりました。先生は、温厚なご性格の中に、幅広い豊かな識見と柔軟な姿勢、率直で暖かい明朗なお人柄を持ち、誰からも敬愛の念を持って愛されました。地域医療に一生奉仕された先生の強い信念と行動力に深く敬意を表し、改めて感謝を申し上げる次第であります。

いま、先生が突然とご逝去なされ、私たちは残念で悲しみに沈んでおります。せめて、一昨日オープンした私たち医師会の新しい健康管理センターの姿を是非、先生からご検参いただきましたかっと思ひます。

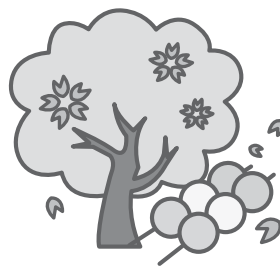
ここに、先生の在りし日を偲びながら、鶴岡地区医師会を代表し、心からご冥福をお祈り申し上げ、お別れの言葉といたします。

どうか先生、安らかに眠りください。

平成23年4月13日

鶴岡地区医師会

会 長 中 目 千 之



## 編集後記

4月から医師会の組織改革に伴い、このたび学術広報を担当することになりました。不勉強の私には荷が重い役職ですが、これを機会に新たな気持ちで務めさせていただきますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

ところで、3月11日の東北地方太平洋沖を震源とする巨大地震のために大津波が襲来して、沿岸家屋が壊滅的な被害を受けて多くの尊い人命が奪われました。そのうえに福島原子力発電所の損壊により、今もなお制御不能で放射線災害の危機的状況にあります。震災発生後すでに3週間が経ち、約3万人の死者と安否不明者がいるなかで、肉親を瓦礫の中に必死に探す被災者をテレビで見て、その心情を察すると悲しみが込み上げてきます。千年に1度ともいわれる今回のマグニチュード9.0の巨大地震はどうすることも出来ない天災です。それでも、津波の犠牲者を一人でも多く救う手立てが他に無かったのか、原発の天災への対策は本当に万全だったのか、また政府の初期対応は迅速かつ適切だったのかなど、未曾有の惨事だけにやるせない疑念を抱かざるを得ません。

同じ東北にあって難を免れた私たちは、一国民としてまず出来ることから行動を起こして、この日本の難局を乗り越えなければなりません。自宅や職場の節電、出来る範囲での義援金や物資の提供、ガソリンなど燃料の節約、医療者としてのボランティア活動、風評に惑わされない冷静な行動など、被災者の立場で一人ひとりがじっくり考えれば何か出来ることが見つかるはずです。そして被災地の早期の復興を願いながら、長い目で支援を続けていきたいものです。「頑張れ」ではなく「皆で頑張ろう！」を合言葉に。

(上野 欣一)

編集委員：上野欣一・伊藤末志・福原晶子・斎藤憲康・阿部周市・高橋由至

発行所：社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

URL <http://www.tsuruoka-med.jp>